

会報  第77号	Mt. Iwaki Conservation Association  <div style="text-align: center; background-color: #e0e0e0; padding: 5px;"> <b>岩木山を考える</b> </div>	2018年12月22日発行  岩木山を考える会  会長 小堀英憲
----------------	--	--

## 「第39回東北自然保護の集い・白神」が行われました

11月10日(土)～11日(日)、西目屋村、ブナの里白神館において、東北各地より61名の参加で行われました。

1日目:講演「世界遺産白神山地 25年のこれまでとこれから」

石川幸男氏(弘前大学)

基調報告「国定公園岩木山麓における自然保護～弥生ネットの取り組み～」

阿部 東氏(岩木山を考える会)

2日目:各県からの報告

「福島県内における再生可能エネルギー開発の現状と課題」高橋淳一氏(福島)

「放射性廃棄物焼却問題」芳川良一氏(宮城)

「秋田白神入山禁止見直しを提案」佐藤昌明氏(宮城)

「最上小国川ダム住民訴訟」高桑順一氏(山形)

「秋田県のツキノワグマその後」奥村清明氏(秋田)

「岩手の自然保護」望月達也氏(岩手)

以上がメイン報告です。各演者の発言中身は、資料があります。筆者の記憶に残ったことを報告します。講演では、白神山地は、目には見えにくい「生態系」が評価されて世界遺産とされた。温暖化による変化をモニタリングし、その成果を発信することに価値がある、そうです。

基調報告では、岩木山の生態系を守るとした、当会の基本方針ほかを報告。岩手大の学生から、当会の具体的な活動についての質問があった。2011年以降の岩木山講座等について後日、文書で応えた。福島からの報告では、再生可能エネルギーへの移行は、自然の改変を最小限にすべき、と。行政が、「モニタリングポスト」を撤去する動きがある。県知事むけアピール



すると。

放射性廃棄物の試験焼却が着手された。市民は司法の場でも取り組んでいます。どんな対応をすべきか？という質問に対しては「安全隔離保管」と返答。

山形の報告は、「ダムのない川と天然アユを生かした地域振興を！」と。たとえ、ダムが完成したとしても、その後も環境影響調査を継続する、と。世界でもダムによる自然への影響から、カナダ、ユーコン川のダムが撤去されている、と。

秋田からは、昨年の報告に続けてのもの。「クマ シンポジウム」(秋田市、10月)が行われました。クマと人間は棲み分けること、と。獣害として、殺傷されるクマを「かわいそうだ。」という里人に、これまでの自分たちの独りよがり、気づかされた。

さて、今回は、青森県が主管。6年前に比べて、実行委員会に参加の組織多く、開催の2日間もその力の結集を感じた。司会の鹿内博氏、会場での討議を深めるように配慮され、ユーモアたっぷり楽しい雰囲気でした。弘前勤労者山岳会からは沢山の参加で開催準備がゆとりを持ってできました。夕食交流会は、倉坪さんの津軽三味線演奏、藤原竹二さんの津軽山唄、での歓迎。野鳥の会、針生さんによるオークションは会場を沸かせました。一年近くをかけて取り組んだ実行委員会の皆様、当日、各持ち場で行動して下さった方々お疲れ様でした。最後に、集いの横断幕は、活動資金が添えられて引き継がれました。「集いアピール」も、討議が深められた内容でした。

藤原 裕貴子 記

## 第39回東北自然保護の集い・白神大会アピール

私たちは、白神山地が1993年(平成5年)12月に世界遺産に登録されてから25年の節目の年に、白神山地の入口である西目屋村で「第39回東北自然保護の集い」を開催した。

この度の集いは、「人間と自然の共存のあり方」をテーマに、講演、報告そして東北各地からの活動報告をもとに、討議と交流を深めた。

今日、東北が抱える自然保護をめぐる課題は、白神山地をはじめとする東北各地のブナ林の保護をはじめ、ツキノワグマ、ニホンジカ等野生動物や東京電力福島第一原子力発電所事故や風力発電所の環境への影響、生物多様性や森と川と海をつなぐダムなどの多くの環境問題があり、それらに共通するのは「人間と自然の共存のあり方」であり、東北のみならず地球規模のテーマでもある。

白神山地が世界遺産に登録された決定的な要因は、春秋林道の建設を阻止し、白神山地のブナ林等の自然環境を守りたいとする全国13,202名の署名であった。そしてその原動力となったのは、秋田、青森両県をはじめとする東北の自然保護運動の仲間々の力であり、この集いが果たした役割は極めて大きいものがあった。

私たちは、これまでの集いの成果をもとに、2日間の大会での報告、交流、討議を踏まえて、今後もかけがえのない自然を次世代に引き継ぐ活動を展開することを決意し、次の項目をアピールとして宣言する。

#### 記

1. 私たち人間を含め、全ての生命ある動植物が共存し、生物多様性が保全されるために、少しでも良好で広い自然環境を残し、一人でも多くの人々に自然を愛する心が育まれるよう今後も各地で活動を展開する。
2. 東北各地には、各県に共通しあるいは県を越える課題も多くあり、それらの課題に「東北はひとつ」との思いを持ち、情報と問題意識を共有し合い、協力、連携して活動を展開する。
3. 自然保護事業に関する関係行政機関の情報公開や事業の検証、及び説明会等による住民参加の確保、充実を求める。
4. 「緑の回廊」に関してはその意義を重視し、安易な開発行為を認めるわけにはいかない。
5. 2000年(平成12年)10月に鱒ヶ沢町で「第21回東北自然保護の集い」が開催され、大会決議として白神2000プランが採択されたが、改めて白神山地世界遺産25年を検証するとともに、「白神山地の管理については、行政側の組織だけで検討するのではなく、自然保護団体など白神山地の自然に実際に関わってきた人たちを加えた話し合いによってすすめること」の実現を関係機関に強く求める。

以上

2018年11月11日 第39回東北自然保護の集い白神大会参加者一同

## 第25回写真展『私の岩木山』開催と出品・会場展示のお願い

毎年恒例の写真展「私の岩木山」を下記の要綱で開催します。

日時 平成31年2月8日(金)～10日(日)  
午前10時～午後5時(最終日は午後4時)  
開催場所 NHK弘前放送局ギャラリー(弘前市下白銀町21-6)  
出展準備 2月7日(木)午後3時から

※出品する方は同封の出品票に必要事項を記入の上ご持参ください。

出品票のみ早目にお近くの監事に提出下されば助かります。

皆様が撮影した岩木山に関連する写真を、ふるって出品下さいますように。(会員外の方も歓迎です。出品作品に手詰まりがある際は、撮影地等を明示して岩木山以外の写真でも展示いただいてもいいです。)開催前日(2/7)は、出展準備で人手が必要になります。時間のある方はお手数でもご協力下さい。よろしくお祈いします。

## 岩木山講座⑤ 冬の岩木山南麓雪山観察会の案内

2019年3月23日(土)の開催を予定しています。実施が可能となりましたら、地元新聞紙上で、詳細や要綱をご案内いたします。

## 2019年度 岩木山を考える会総会開催のご案内

日時 2019年4月7日(日) 午後1時30分～3時30分

場所 弘前市民参画センター

多くの会員の皆様の出席をお願いします。

## 2018年2回目の弥生スキー場跡地観察会雑感

秋の観察会が9月23日に行われました。3組の親子8人(小学校低学年)と弘前市緑地課4名・岩木山を考える会7名のスタッフ11名で総勢19人が弥生いこの広場に集まりました。天気も最高です。緑地課の課長さんからは、楽しんで思い出をたくさん作ってくださいとお話がありました。観察シートを首にかけ出発です。

コースは春とは少し変更し、歩き始めをキャンプ場入り口からのスタートにしました。この場所はキャンプしないと入れない場所なので、とても新鮮な感じでした。入ってすぐ、芝生の中に白い小さな星型の花があちこちで咲いていました。皆で腰を下ろして観察してみると、センブリの花でした。昔は胃薬として重宝されて、乾燥後煎じてお茶として飲まれたそうです。皆で小さい葉をかじってみたら、苦みがありました。大人は苦みで変な顔をしたので、小学生には嘔む前からいやいやされました。センブリの花は珍しく、芝生のように何回も刈り払いされるところが好きなようです。元高長根スキー場こもあります。



早速“弥生いこの森いきものさがしシート”にチェックを入れます。今回も9個の写真付きです。少し歩くと鳴いているセミの声が聞こえてきます。その場所を探して確認し

たり、トンボを捕まえた子どもは、アキアカネの特徴を聞きました。

その後、沢に降りました。二ホンザリガニとヨコエビを探します。初めて見る子がほとんどです。沢水の音とはしゃぐ声が入り混じります。クモがたくさん拾うことが出来ました。二ホンザリガニは沢に返しました。なだらかな山裾を歩き、オニグルミがたくさん落ちている場所がありました。そこではスタッフが用意したくるみ割り器でクルミを割る練習をしました。便利な道具がなかった場合は石を使うことも実践しました。子供たちは練習した結果、小さいながらも、土台の石、打ち付ける石の大きさ、力のいれぐあい、たたく回数等を体感したことはいい経験だったようです。展望所では眼下に弘前市街を見ることが出来ました。崖のすぐ下はスキー場として整備された地面は想像すらできず、緑が広がっておりました。オオイトリの笛は子供は全員吹けました。

参加した男の子に感想を聞いたら、大きいカマキリを見つけ帰りまで帽子につけて遊んだこと、観察前にカナヘビをたくさん見つけて採ったことがおもしろかったと話してくれました。来年も来てくださいねと言ったら、部活が始まっていそうだと付け加えました。しっかりしてるんですね。

弥生ネットさんからおいしい豚汁を輪になって全員でいただき、山のおいしい空気を吸って、子供の笑顔と元気いっばいの声に癒された一日でした。

石戸谷 芳子 記

### 「石戸谷さんの記事」を後述

以前からその博識、そしてお子さんやご家族に対する優れた指導力に感服していた。自分は石戸谷さんに9月23日観察会の文章を依頼していましたのでそれを記載していただいた次第です。小生としても当日の印象としては

- いつもと違うコースで少し道なき道をかき分けて進むコースだったので野趣があって参加の方々も新鮮だったのではと思います。
- 松本さん、石戸谷さんの博識にはいつも感心。
- キノコは不作だった。
- コースを一周して一応終了し坂道で終了ミーティングの際「本日の観察会は一生の思い出となりました。」と発言なさった市職員の方(?)の言葉が印象的でした。(天候もよかった)

又、昼食時の鍋汁もおいしく市職員の方々、子供さん、親御さんにとっても好印象だったとお見受けしました。この行事は市側にとって弥生ネット側にとってもプラス指向となっているのでは・・・と考える次第です。そしてこの観察会を企画・指導なされた事務局長に対しては「ご苦労様です、ありがとうございます。」と言いたい次第です。

斉藤 真人 記

## 岩木山講座③ 廻堰で渡り鳥と岩木山を観る

11月18日(日)、鶴田町津軽富士見湖駐車場に集合して、16名の参加で観察会を行った。野鳥の会の皆様の案内で充実の内容でした。廻堰大溜池は県指定鳥獣保護区で自然に恵まれた野鳥の宝庫。特にガン・カモ類の渡りの時期(11月と3月)、オナガガモの飛来数は数万羽となり、日本一のオナガガモ中継地だそうです。田んぼでの餌をとるところを観察するために、近くの茂みのある、八幡宮に移動。準備された望遠

鏡で、シジュウカラガン、マガン、ヒシクイの採餌の様子を観察。餌を食べた後、一斉に飛び立つ所を見ることができました。その数は約500羽、と。

廻堰溜池の「鶴の舞橋」上からも観察を続けました。この時期ならではの、当地での貴重な観察会でした。「野鳥の会」の皆様が継続して観察を続けている事で自然界の変化をいち早く気がつく機会となっている事を知り「野鳥の会」に対する認識を新たにしました。



藤原 裕貴子 記

## 岩木山登山アンケート

「岩木山の頂上まで登ってみたい。」「ふもとから歩いて登ってみたい。」とたくさんの声が聴かれましたが、実際にふもとから登ったことがある子どもは763名中33名でした。

弘前市の小学6年生と教職員を対象に「岩木山登山アンケート」を実施

岩木山を考える会が実施した「岩木山登山アンケート」の概要をお知らせします。詳細は、岩木山を考える会ホームページに掲載されておりますのでご覧ください。今後、当会としてどのような取り組みが出来るか考え合いたいと思います。

2018年12月9日

「岩木山登山アンケート」集約結果(抄録)

岩木山を考える会

弘前市民憲章は冒頭で「岩木山(おやま)とお城に見守られ」と謳っています。岩木山は、津軽に住む人々の心に焼き付く原風景と言えます。しかし、弘前市の子どもたちは、この岩木山を下から眺めるだけでなく、頂上から見下ろす経験をどの程度持っているのでしょうか。若者の地方離れが進む昨今、子どもたちがどの程度こうした体験をしているものか知ることが出来れば、今後の私たちの活動にも生かしていける、そのように考え、当会では弘前市教育委員会に問い合わせました。しかし、岩木山登山に関わる子どもたちのデータは「ない」とのことでした。それなら、自分たちでアンケートを取ってみよう、ということで、2018年9月、弘前市内の小学校6年生と小学校教職員を対象に、「岩木山登山アンケート」を実施しました。

以下、その結果をまとめました。

## 1. アンケート

(ア) A4 用紙1枚、無記名

(イ) 設問内容

- ① 岩木山に登ったことはありますか  
1. どのようにして登りましたか
- ② 誰と登りましたか
- ③ 岩木山に登ってみたいと思いますか  
1. どのようにして登ってみたいと思いますか
- ④ 自由記入欄

## 2. アンケートの方法と期間

市内全小学校長宛に上記アンケートへの協力依頼をした。その結果、35校中24校の承諾が得られた。承諾を得た学校宛に、9月中の実施をお願いして、小学校6年生と学校教職員の人数分のアンケート用紙を8月下旬に送付、10月上旬までに全24校から返送を得た。

(ア) 学校数 24校／35校

(イ) 回答者数(小学校6年生) 763名／1370名(9/30現在) (55.6%)

(ウ) 回答者数(教職員)332名／661名 (50.2%)

## 3. 結果とまとめ

(ア) 岩木山登山アンケートに答えてくれた小学校6年生の子どもたち763名の中で、**岩木山の頂上まで登った経験のある子ども(小学校6年生)は29%218名でした。**途中まで登ったことがあると答えたのは13%98名で、登った経験のある子どもは316名42%でした。一方、**登ったことがないと答えた子どもは58%443名でした。**

学校教職員にも同様の質問をし332名から回答を得ました。その中で90%301名が登ったことがあると答えました。登ったことがないと答えたのは9%28名でした。

大人と子どもとでは対照的な結果となりましたが、この数字が単に年齢を重ねることによる経験値の大きさによるものなのか、それとも子どもたちが登る機会が少なくなっている—自然に触れ合う機会が失われている?—ことの反映なのかは明確ではありません。

登山経験は、家族での登山が多いですが、同時に学校行事や親子レクで得られている様子もうかがわれました。しかし、一部の学校にとどまっているようです。岩木山登山が体力的に実施可能になるのは小学校高学年あたりからなので、受験勉強などで忙しくなる前に、一度は体験する機会を与えてはどうでしょうか。

(イ) どこから登ったか、という問いに対して、スカイラインを利用したのが280名、**ふもとから歩いて登った経験のある子どもが33名、全体763名の4.3%でした。**ふもとの登山体験が非常に少ないことが見て取れます。また、誰と登ったかを「ふもとから」「スカイラインから」で集計してみると、「ふもとの登山を誰と登ったか」では、家族での体験に限られていました。スカイラインからの登山体験で

は、「先生」(169名)や「ガイド」(114名)と答えた子どもがいたことと対照的です。**学校関係の登山企画はスカイラインを利用した登山に限られていることが判ります。**

他方、教職員の場合は、ふもとから歩いて登った人は全体の42%124名に上りました。この方々が誰と登ったか、と言う問いでは「仲間と」(65名)に次いで「子どもたちと」(50名)という回答を得ました。その他の自由記載欄には、「引率」「親子レク」「学校行事」「PTA 行事」という答えと共に、「小学校の頃行事で」「子どもの頃遠足で」という回答が並びました。つまり以前は親子レクや学校行事でふもとの登山が行われ、また自らの子ども時代にはふもとの岩木山登山の遠足があった、ということとして理解できます。

教職員が体験してきたふもとの登山が今は行われなくなっている、ということが見えてきました。

(ウ) どの登山道を利用したか、という質問に対しては、回答できない子どもが多かったですが、答えた子どもの中では嶽コース(23名)、百沢コース(15名)、弥生コース・鯉ヶ沢コース(各11名)の順でした。一方、**大石神社をスタートとする赤倉コースが2名と少ないことが判りました。**

教職員の回答も似たような傾向を示しました。嶽コースの利用が圧倒的(87名、56%)で、**弥生コース、赤倉コースは(3、4名)1~2%に過ぎません。**

赤倉コースには修験者の宿泊所があり、観音像が登山者を迎え岩木山の歴史を肌で感じることができます。標高が上がるにつれての樹種の変化も感じ取れ、5つのコースの中でも比較的なだらかで歩きやすいコースです。このコースはもっと利用してもらいたいものです。

(エ) 岩木山に登ってみたいか、という問いに対して、**71%544名の子どもが登ってみたいと答え、そのうち、51%274名の子どもがふもとから歩いて登ってみたいと答えました。また、登ったことがない子どもたちも64%287名が登ってみたいと答えています。**一度でも登って見たことがある子どもたちは景色のすばらしさや達成感をその動機に挙げ、登ったことがない子どもたちは、頂上からの景色を見たい、毎日眺めている岩木山の頂上に立ってみたい、などの希望を述べています。

教職員もほぼ同様の傾向で、71%237名が登ってみたいと答え、登ったことがない大人で登ってみたいと答えたのも19名67%でした。自由記入欄では素晴らしい景色、達成感と同時に、「子どもに頂上から見える景色をみせてあげたい」「弘前に住む子どもたちにはぜひ登山経験させたい」などの声が出されていました。

(オ) 高山である岩木山の登山は、夏山であっても一定のリスクが伴います。**自由記入欄の中で、少数ですがリスクの問題に言及している回答がありました。貴重な意見で今後の取り組みに生かす必要があります。**

「岩木山はとても寒いし、木にひっかかっておちたことがあります」

「下りる時はすべったりしてとてもこわかった。」

「えだなどが足にあたっていたかった」

「岩がぬれていて、すべってきけんだった。」(以上、子ども)

「風が強い時もあり、登る直前でも予想できないことがある。スカイライン、ロープウエーを利用して手

軽に登山できる感じもするが、やはり危険はあることを充分に知ることが大切だと思います。」

「リフトを利用して9合目から登る方に、あまりにもラフな感じで(サンダル等)登る方を見かけるので、注意を呼び掛けたほうが良いと思いました。」

「今から15年前に自然教室の一環として登りました。上りは良かったのですが、下りに児童が滑落した児童を受け止めようとしたら、自分も5m程滑落した。ジャージが破れ、でん部が負傷したものの、児童も自分も助かったが、それがトラウマとなり、以降登山はしておりません。」(以上、教職員)

(カ) ほとんどの子どもがふもとから岩木山に登ったことがなく、多くの子どもが一度は登ってみたい、と考えているという結果に、弘前に住む大人がどう応えたらよいのでしょうか。リスクもある岩木山登山ですが、市の憲章の真っ先に「岩木山(おやま)とお城に見守られ」とする弘前市です。市が音頭を取って施策を練ることが必要ではないかと考えますが、同時に、岩木山を毎日仰ぎ見る私たち自身が市民レベルで子どもたちの願いを少しでも実現する方向を模索するための意見を交わすことが必要ではないでしょうか。そのことが長い目で見れば弘前市の人口減少を抑えることにもつながるに違いありません。岩木山を考える会としても、今後自分たちに出来ることを考えていきたいと思います。



## 「秋期のエコプロ」参加と「岩木文化祭・写真展」を見学

10月14日に行われた「秋のエコプロ」に参加しました。春期(といっても7月)に比べ参加者は少数(10数名、春は50~60名?)でしたがその志は本物で中には横浜市からの参加者も居りました。コースは「造り坂」の上側と下側の2コースだったようで、小生は上側に参加しました。それほど目に付く廃棄物は少なかったのですが少数ながら志のしっかりした方々は草の陰などに隠れていた廃棄物を熱心に探し集めました。

結果は春に比べ少量でした。そして「ハイチーズ」の撮影後ソバ、オニギリ、アイス等をご馳走になりました。

11月24日25日に「あそべる」で行われた岩木文化祭の中で観光協会主催の「岩木山写真展」を見学させていただきました。出展数は150点程とのことで「岩木山の想い」が肌に伝わってくるような作品でした。本会の写真展とも違うその作品に対して来年でも見学なされればよいのではと思う次第です。出展品の中には「天の川と岩木山」「飛行機と岩木山」「フランス印象派絵画を思わせる配置の写真」等々時間をかけてゆっくり見学すればよかったのではと思った次第です。(小生は所用のためゆっくりは出来ませんでした)

「春秋エコプロ」「晩秋の岩木文化祭」等々、岩木山ファンとしては共鳴しないわけにはゆかず、できるだけ参加と見学をしてゆくつもりです。今後も。

斉藤真人 記

## 青森県未記録の昆虫、探索のお願い。

・ツヤハダヒメゾウムシ *phrissoderes rufitarsis*(Roelofs)

黒色 3.3～3.9mmのゾウムシ。本州・四国・九州に分布 中国福建省

ギンラン・コウシュウラン・サイハイラン・ミズチドリ・ショウキランに加害。

ツチアケビ・エゾスズラン・オニノヤガラ・ノビネチドリの花や萌芽に加害する。岡山ではサルメンエビネへの加害で知られている。ゾウムシ(象虫)の仲間では口の部分がとんがって突き出しているのが象虫の名がある。ラン科に寄生する虫は他に知られていないので、発見は容易である。ついでにランの種類も上記以外では初記録となる。

阿部 東 記

### \*会員継続と平成 30 年度会費納入のお願い\*

 平素当会の活動にご理解、ご支援をいただきありがとうございます。今年の会費を未納の方には引き続き、会員継続とご協力をよろしくお願いたします。

### \*会員の皆さんへお願い\*

 岩木山に関する情報やこういう事を会員皆と共有したいと言った希望がありましたら、事務局までご一報下さい。会報は会員の皆さんの交流の場です。また、寄稿なども大歓迎です。

### \*幹事募集と幹事会への参加呼びかけ\*

 岩木山を考える会の企画・運営に参加してくださる方を募集しています。まずは、毎月第一火曜日(5月は第二火曜日)に開催している幹事会に顔を出してみませんか? 日頃、岩木山についてお気づきのことや考えていることなど、ざっくばらんにお聞かせください。桜大通り、市民参画センターで午後 6 時～。

### ※編集後記

今年も無事りんごの収穫を終えました。心配された黒星病はかかなり抑えられたのですが後半に褐斑病が少しでてしまいました。収量は平年並みなのでまあまあといったところですね。収穫後はりんごの宅配作業に追われ雪囲いなどの冬準備を積もった雪を掘り返しつつやっているところです。このところ毎年こんな感じなのでうちちょっと早く仕事をやっつけたい。

小倉慎吾 記

会報「岩木山を考える」第77号(2018年12月22日)発行/岩木山を考える会

会長 小堀英憲 〒036-8131青森県弘前市千年4-12-15/電話0172-87-1910

事務局長 竹浪 純/電話070-6952-2614

郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先:岩木山を考える会